

浄率や繊維に及ぼす損傷状態から種々考究を進めてきたが更に総合的優劣比較を行う意味で今回はその洗濯労作時に於けるエネルギー代謝の測定を行い能率的な洗濯方法の一端を知り得たので報告する。

2 被検者は主として身長、体重、年齢の略等しい成年女子二名を選んだ。洗濯物は荷重を一定にし、時間は予備実験により必要と見られる時間を算定してそれにより行った。エネルギー消費量はその呼気分析を労研式ガス分析器によって測定して算出した。

3 (1) 電気洗濯機を主体とする洗濯(木綿)、手もみ洗を主体とする洗濯(木綿)及つかみ洗を主体とする洗濯(毛糸)の三つの型の一連の洗濯(予洗からすすぎまで)に必要なエネルギー消費量を比較すると手もみ洗を主体とする洗濯が最も大で他の二型には余り差がなかった。

(2) 手もみ洗、はけ洗、つかみ洗の技法を比較するとそのエネルギー消費量は手もみ〈はけ〉つかみの順となった。

(3) 手もみ洗に於いて労作時に於ける姿勢の比較を行なった結果しゃがみ洗いが最も作業強度が大で立式、腰掛式は余り差がなかった。

(4) すすぎ、脱水過程に於いて(振り洗+手しぼり)、(電気洗濯機すすぎ+ローラーしぼり)、(電気洗濯機すすぎ+遠心式脱水)の三型を比較するとその脱水率及びエネルギー消費量から第三型が最も能率的であった。

53 手洗技法に於けるエネルギー代謝について

高知大教育 西村 久子
吉川 せつ

1 前回まで手洗技法による洗濯効果についてその洗